



～年間聖句～「だから、キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです。古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた。」コリントの信徒への手紙Ⅱ 5章17節

他律から自律へ

「Sense of Mission」は、生徒に向けてのメッセージもありますが、保護者・教師などの大人に向けた話の色合いも濃くなっています。上から目線のメッセージという捉え方もされるかもしれませんが、私は、生徒・保護者・同僚が醸し出してくれている“心理的安全”があると思っているから、伝えたいことを伝えられています。感謝です。

さて、中高生年代は、生徒たちを「他律から自律」へ導く大切な時期になると思います。特に高校年代は「保護者」という言葉の意味合いも変わることを保護者にも認識してもらいたいと思っています。義務教育段階では「保護してあげる人」という感じであるのですが、高校年代は「自律を支援する人」に切り替えをする必要があります。

私は、保護者等の集まりで話をするとき、マインドセットに重きを置いています。その際、学校教育は大きく変わっているという話をします。これまでは「〇〇ができるようになる」という“Doing”を問われていましたが、これからは「自分の行動の考え方、つまり自分の在り方・生き方」という“Being”が大事になってくるという話をします。そして、私たち大人の無意識的な“Being”は、子どもに影響していきます。無意識的な自分自身というのは自分ではなかなかわからないところもあると思います。しかし、それを見ている子どもは、その“Being”に影響されていきます。それは子どもの言動を見るとわかります。

よく聞く話として、子どもが誰かに対しての文句を言う場合、保護者も同調して文句を言い、その誰かに対して、攻撃的に関わることがあります。今、さまざまな学校で、このパターンでの保護者からのクレームが多く、その対応に学校が疲弊している現実もあります。私も、他校の先生からよく相談を受けます。子どもは、他者のいいところを見る時、自分にとって都合のいい他者だけがいい人になり、都合の悪い人に対しては、悪口でその相手を表現することがあります。親は、そのような習慣を身に付ける子どもにしたいとは思っていないのに、子どもは、親がそのタイプだと、ネガティブな口ぐせを身に付けることになります。想像力を働かせたらわかると思うのですが、ネガティブな口ぐせの人は、その後嫌われ、共同体感覚を周りの人たちとつくりにくくなります。脳科学的にも、自ら吐くマイナスな言葉に一番影響を受けるのは自身になるという研究結果もあります。

子どもを他律から自律へ導くためには、私たち大人の言動にもポイントがあります。それは一言で言うと「寛容さ」です。人は、心が寛容な人の中で育てられると、忍耐強くなるという研究結果があります。そして、「忍耐強さ」が継続されなければ、何事もやり遂げることはできません。人は、たった一人で何かを成し遂げたりはできません。時に、関わる誰かの励ましだったり、言葉でないとしても笑顔だったり、その人の忍耐強さは継続されます。そんな学校であることを女学院のプライドにしたいと思っています。

（学校長 重枝 一郎）

